

令和 3 年 6 月 16 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00670

研究課題名(和文) 高精細度広域地図による中国および隣接する多言語地域の地理言語学的研究

研究課題名(英文) Geolinguistic Studies of China and Adjacent Multilingual Areas

研究代表者

遠藤 光暁 (ENDO, Mitsuaki)

青山学院大学・経済学部・教授

研究者番号：30176804

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：遠藤は特に中国山東省の声調およびクラ・ダイ語の数詞につき、鈴木博之はチベット語方言につき、八木は中国語のerなどの音韻特徴につき、鈴木史己は中国語の語彙につき、それぞれこれまでの地点密度を超える言語地図を相当数描画し、その形成過程に対して推定を行った。

中国の少数民族語および漢語の地理言語学的研究および比較研究に関する研究集会をオンラインで行い、中国の研究者・院生たちの研究も推進し、交流を深めた。また「アジア・アフリカ地理言語学研究」プロジェクトを開始し、またLinguistic Atlas of Asiaの最終編集も終え、より大きな地域におけるマイクロ・マクロな地理言語学的研究を展開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地理言語学は言語特徴ごとにできるだけ多くの地点における地理分布を描画し、その形成過程をきめ細かく推定するものである。中国の諸言語およびその周辺言語ではまだ草創期にあるが、できるだけ地点数を多くし、多くの言語に適用するよう努めた。汎用性の高いGIS(地理情報システム)を使用したので、人文・社会・自然科学の諸現象との相関関係を見るのにも便利であり、諸現象の形成プロセスを総合的に見ることが可能になる。

研究成果の概要(英文)：ENDO focusing on tone in Shandong province China and numerals in Kra-Dai, SUZUKI Hiroyuki focusing on Tibetan dialects, YAGI focusing on phonological features in Sinitic, for example “er” etc., SUZUKI Fumiki focusing on Sinitic vocabulary, a certain number of linguistic maps were respectively drawn with more dense locations than before, and their formation processes were inferred.

Research meetings concerning geolinguistic and comparative studies of Sinitic and minority languages in China were held online, promoting researches by Chinese scholars and graduate students, also interchanges were deepened. Moreover, project on “studies in Asian and African geolinguistics” has been started, developing micro- and macro- geolinguistic studies in the wider area.

研究分野：言語学

キーワード：方言 中国語 チベット語 クラ・ダイ語 地理分布 形成過程

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

1989年から岩田礼教授によって中国語方言地理学の科研費プロジェクトが開始され、本研究はその延長線上にある。この活動はそれ以来、代表者が平田昌司・遠藤光暁・太田斎・再度岩田礼となって20年以上引き継がれた息の長いものである。これは中国語のみが対象であったが、2007年からは東南アジア諸言語も含む地理言語学的共同研究を開始し、2015-17年度には東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の共同研究として「アジア地理言語学」のプロジェクトを行っている。これはアジア全域を対象として30名前後の各語族の専門家が連携して行うビッグプロジェクトであるが、本研究の研究分担者はその中でも積極的に課題を遂行しており、新進の若手でもあるので、中国とその隣接地域に限って精度の高い広域地図を描画し、これまでの水準を超える精細度と規模を実現しようと着想するに至った。

2. 研究の目的

中国およびタイなどの隣接地域における中国語・チベットビルマ語・タイカダイ語の言語地図を計5000地点以上の高精細度で描画し、その形成過程を詳細に跡づける。具体的には、(1)中国語とタイカダイ語の声調を主とした音韻特徴；(2)中国語とチベットビルマ語の基礎語彙、特に雲南・四川・甘粛などのチベット語諸方言についてはスワデッシュ基礎語彙100語の言語地図を3年間で作成する。中国語については従来は全国で1000地点が標準であったが、これにより平均で5倍以上、局部的には10倍以上の高精細度となり、タイカダイ語については従来100地点から800地点以上とするのが目標である。チベット語は従来より300地点ほど対言語人口比で充分高い精細度であったものを更に多くの語彙について及ぼす。これにより、東アジアの多言語地域につきかたつてない精度と規模で声調や基礎語彙の多彩で精密な変化過程を跡づける。

3. 研究の方法

中国には30ほどの省(自治区や直轄市も含む)があるが、1省200地点として6000地点、実際には潜在的には既に1万地点以上の方言データがあるものと見積もられる。それには膨大な量の調査報告・論文・修論博論などがあり、その汗牛充棟の程度はこの30年で一人の研究者で扱うには不可能な程度に達している。一例を挙げると、研究代表者の書架は30年前には中国語方言につき2個ほどで足りたが、現在では15個程度必要であり、少数民族語についてもほぼ同様である。

そこで、多くの研究者がチームになって対処する必要がある。中国では現在では省単位で言語地図を作るプロジェクトが平行して進行中であるが、精細度は高まるものの局地的な分布のみを見ることとなる。本研究のように全中国の広域地図を高精細度で作る試みは中国でもあるようだが、依然として1000地点ほどをカバーする状態と見られ、解釈までは至っておらず、少数民族語も未着手である。

本研究チームは既に多年にわたり各種方言地図を描き、解釈する経験があり、日本語方言地理学の成果を踏まえつつ、声調を一貫して扱ってきた遠藤・八木、中国語方言語彙の方言地理学的研究を専攻する鈴木史己、チベット語方言を300地点以上自ら現地調査し、数多くの地理言語学的研究を既に行っている鈴木博之の4名が緊密な協力態勢にあり、従来よりも格段に精細度の高い言語地図を描画し、中国語全方言・チベットビルマ語・タイカダイ語の多言語にわたる通時的検討を通して精度が高くタイムスパンの長い変化過程を推定する。

4. 研究成果

この科研費プロジェクト期間であった2018年4月から2020年3月までは疾風怒濤の如く地理言語学関係の研究および研究活動を展開することができ、大きな成果を挙げることができた。これには研究代表者の遠藤光暁が同時に採択された新学術領域ヤポネシアゲノム(2018~2022年度)の言語班の代表を務めていること、青山学院大学総合研究所で地理言語学研究センターを2019年度から2022年度まで開設中であること、2019年に日本地理言語学会を創設したこと、2020年度から2022年度まで東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(AA研)の共同研究課題として「アジア・アフリカ地理言語学研究」プロジェクトを遂行中であることも相まって、国内外を舞台とした共同研究を促進し、本科研費メンバーの個人研究もほぼ計画通り進め、部分的にはそれを上回って遂行した。

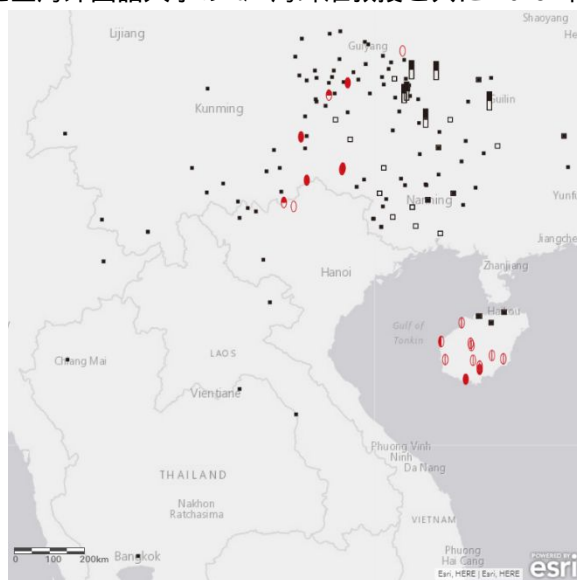
共同研究について述べると、まず国内外で各種研究集会を主催・共催した。2018年5月にはジャカルタのインドネシア大学とともに第4回アジア地理言語学国際会議を開催し、2018年11月には神戸市外国語大学における第68回日本中国語学会大会においてワークショップを組織し、2018年12月には陝西師範大学において漢語方言比較和地理研究論壇を中国側と協力しつつ開催した。2019年4月6日には中国北京の中央民族大学にて「中央民族大学2019年中国民族語言地理語言学沙龍」を開催し、日本側5名、中国側10名で発表・討論を行った。また2019年7月にはオーストラリアで研究発表を行い、更に2019年度には中国各地の7つの大学を訪れ、多くの方言学者・院生と地理言語学に関する研究交流を行った。2020年12月には中国の方言学者た

ちと「中国語地理比較論壇」をオンラインで開催した。これによって大きな潜在的発展余地を持つ中国などのアジア諸国の研究者・院生・学部生たちの地理言語学的研究に対する興味を引き出し、具体的な作図技能や方法を伝授し、既に刮目すべき成果が続々と現れつつある。2020年度には「アジア・アフリカ地理言語学研究」プロジェクトをAA研で開始し、2回研究会を行ったが、ふだんから英語のみで発表・討論を行っているため、オンライン化した結果アメリカ・オーストラリア・シンガポール・ベトナム・中国などからも参加があり、非常に活発化した。本科研メンバーもおおのこの語族において研究発表を行っている。

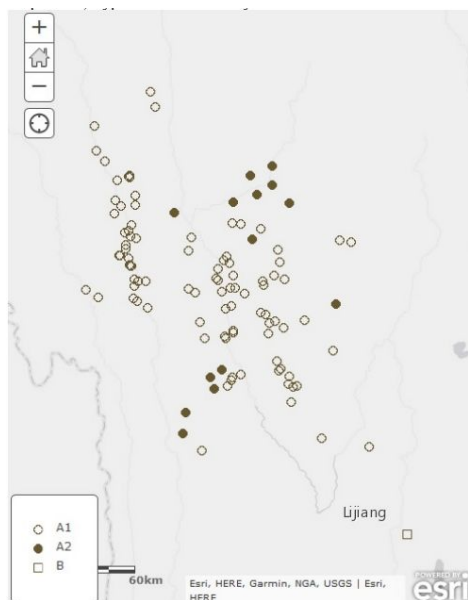
そうした研究交流の成果を時を移さずAA研や日本地理言語学会の電子出版物の形でまとめ、既になりに公開されており、更に引き続き年に3冊程度のペースで公刊される予定である。また2020年度にはこれまでにアジア地理言語学に関する成果をまとめた *Linguistic Atlas of Asia* の編集を終え、2021年度に紙版が出版されるはこびとなっている。

各メンバーごとの研究成果について以下に挙げる。

遠藤光暁は、2018年度にまず漢語方言の資料の網羅的な収集に着手し、いくつかの省につき中国側の協力も得てかなりはかどった。また山東方言の声調について引き続き言語地図による研究を進め、更に河北省にも及ぼし、その成果の一端を2018年にリトアニアで行われた第9回国際方言学地理言語学会大会で発表した。また上海外国語大学の Qi 海峰准教授と共に2018年に南京大学で開催された第10回演化言語学国際研討会で山東方言の地理軸に年齢軸を加えた三次元方言調査の成果を報告した。またタイやオースでの声調調査も含めて曲折調に重点において2018年の日本中国語学会大会で発表し、論文も執筆した。2019年度には日本を含む中国および周辺地域の言語地図を各種描画し、その形成過程を考察した。語彙としては「馬・南瓜」など、文法としては連体修飾語の語順、音韻としては子音の体系などである。2020年度はクラ・ダイ語の数詞の言語地図を描き、クラ語派・リー語派がオーストロネシア語族と共通し、それ以外の語派が漢語数詞を借用した状況を細かに跡づけた。また、「五・六」を表す語形の特徴からタイ語派が広西チワン族自治区の龍州一帯を故地としてそこから移住していったことを示した。右に掲げるのはその「六」に関する地図である。



鈴木博之は、2018年度はまず《拉 hu 語方言地図集》の電子化と地理言語学的解釈の作業に着手し、大部分の地点情報の入力を終え、2枚の地図の解釈を試みた。加えて、四川省における現地調査を行い、四川省のチベット系言語の基礎語彙について言語地図を作成する作業に取りかかった。また、雲南省のチベット系言語の言語地図集を出版するための仕上げを行った。以上の成果に基づき、著書1冊、論文1編を発表し、会議・招待講演を10件行った。2019年度は中国への出張を3度行った。出張では、計2つの研究会に参加して関連する研究発表を行い、招待講演を1件行った。加えて、雲南省において1か月のフィールドワークを行い、言語資料を収集した。本研究の成果として、論文を2件発表し、国際学会で数件の発表を行った。2020年度は東チベットにおいてチベット系諸言語の言語地図を拡張・補完するため、現地の研究協力者を派遣して中国雲南省と接するチベット自治区チャムド市および四川省カンゼ州を中心に臨地調査を行い、方言資料を収集した。収集した方言は12地点で、それぞれ約1000の語彙形式と200種の基本文を記録した。右に掲げるのは雲南チベット語のスワッシュ100語の地図集のうち「私」の項目である。

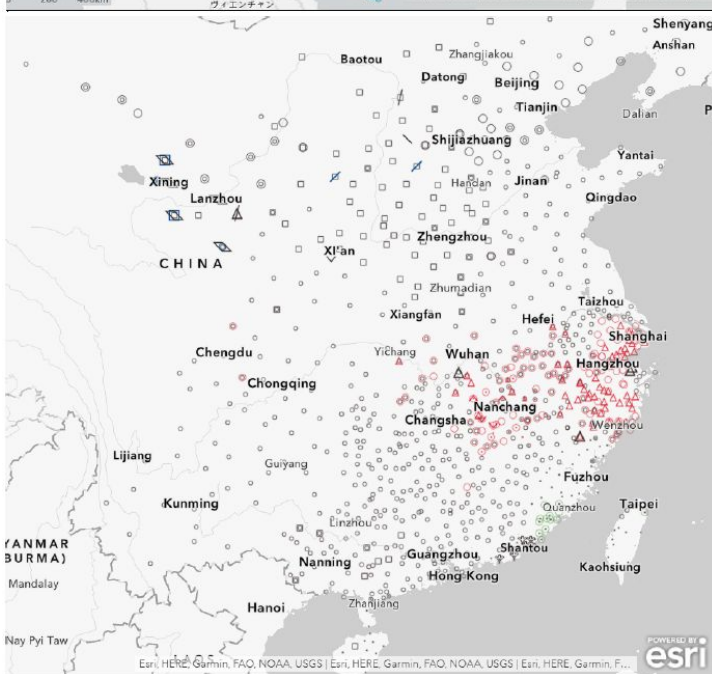
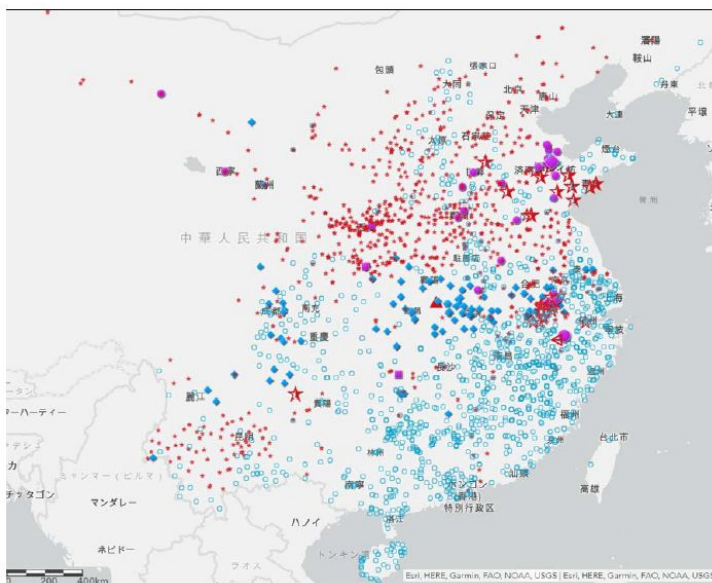


八木堅二は、2018年度に声調、r化、軽声、前舌唇母音について、全国のデータを収集し地図化した。山西省近隣地域についてはデータのさらなる充実を図り、構造的な分析も加えた。2019年度は幅広く文献の調査を行い、文献目録を作成するとともに、子音や音節融合に関して山西省・河南省・内蒙古自治区など中国華北地域を中心にデータの収集と入力を行った。母音体系や声調体系、アクセントに関連する項目で、すでに一定程度の入力を終えたものについては、分析にとりかかり、学会発表を行うとともに論文としてまとめた。2020年度は中国語方言の子

音体系のデータ収集を中心に行い、2000 地点以上のデータを得た。歯茎閉鎖音の系列や流音の系列に関しては論考としてまとめ学術会議などで発表を行った。その他関連する事象について、中国域内の少数民族言語のデータ収集、中国語方言における個別の字音の収集、異読音の出現状況の調査等を行った。右の地図は流音声母の中国全土における地理分布の例である。

鈴木史己は 2018 年度に浙江省・江蘇省・安徽省の資料とデータベースを整理し、高精細度地図のサンプルを作成した。2019 年度には江西省・湖南省の言語データベースを整理するとともに、湖南省とその近隣地域を範囲とした高精細度の語彙地図のサンプルを作成・分析した。それと同時に、本科研の初年度に整理した浙江・江蘇・安徽 3 省のデータベースについても引き続き整理・補充し、特に他の 2 省に比べて地点数が不足していた安徽省のデータを重点的に追加した。2020 年度は福建省・台湾の言語資料の収集につとめ、1 年目に扱った浙江・江蘇・安徽 3 省、2 年目に扱った江西省・湖南省とあわせて言語データベースを整理した。また、このデータベースを利用して基礎語彙の「(背が)高い/低い」を表す語形の方言地図を作成・分析し、その成果を「中国語言地理比較研究論壇」で発表した。右の地図はその体系の地理分布図である。

以上のサンプルに加えて、各メンバーとも AA 地理言語学プロジェクトの課題の地図も各種描画・解釈した。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 遠藤光暁	4. 巻 13
2. 論文標題 山東方言轻声前変調の地理分布	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 131-143
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/21864	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Mitsuaki Endo	4. 巻 129-1
2. 論文標題 Geographical Distribution of Certain Toponyms in the Samguk Sagi	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Anthropological Science	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1537/ase.201229	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 周洋、鈴木博之	4. 巻 4
2. 論文標題 水磨房話體範疇的混合特徴	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 民族語文	6. 最初と最後の頁 43-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Chunmei Li, Hiroyuki Suzuki	4. 巻 39
2. 論文標題 Affricate series in Jintang Tibetan (Darmdo Municipality, Sichuan)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Kyoto University Linguistic Research（京都大学言語学研究）	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/261910	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鈴木博之	4. 巻 39
2. 論文標題 [書評] Jean-Claude Bouvier et Claude Martel. La langue d'oc telle qu'on la parle : Atlas linguistique de la Provence	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都大学言語学研究	6. 最初と最後の頁 149-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/261916	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Suzuki, Tashi Nyima	4. 巻 4
2. 論文標題 Evidential system of copulative and existential verbs in Lamo.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Grammatical phenomena of Sino-Tibetan languages	6. 最初と最後の頁 x-x
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木博之	4. 巻 1
2. 論文標題 从地理語言学的角度看雲南藏語/l/及/j/的歷史發展	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国語言地理研究論文集	6. 最初と最後の頁 21-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 次林央珍、鈴木博之	4. 巻 1
2. 論文標題 東旺藏語語言地図及其与周边的土話的關係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国語言地理研究論文集	6. 最初と最後の頁 39-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八木堅二	4. 巻 1
2. 論文標題 er 音的分布—以中西部方言為主	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国語言地理研究論文集	6. 最初と最後の頁 205-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木史己	4. 巻 1
2. 論文標題 漢語方言中の反義形容詞比較研究—以“高/矮”為例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国語言地理研究論文集	6. 最初と最後の頁 248-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤光暁	4. 巻 6
2. 論文標題 中国各個語族中定語詞序類型的地理分布	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Asian Geolinguistics, Monograph Series	6. 最初と最後の頁 82-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤光暁	4. 巻 6
2. 論文標題 漢語及周辺語言中“南瓜”和“馬”兩個借詞的地理分布	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Asian Geolinguistics, Monograph Series	6. 最初と最後の頁 90-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ENDO Mitsuaki	4. 巻 12
2. 論文標題 Bidirectional Change in Tone: Evidence from Chinese	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Keizai Kenkyu, Aoyama Gakuin University	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsering Samdrup and Hiroyuki Suzuki	4. 巻 42.2
2. 論文標題 Humilifics in Mabzhi pastoralist speech of Amdo Tibetan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Linguistics of the Tibeto-Burman Area	6. 最初と最後の頁 222-259
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1075/ltba.17008.sam	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 SUZUKI Hiroyuki	4. 巻 7
2. 論文標題 How Tibetans classify pigs in their languages in the eastern Tibetosphere: Revisiting the pig issue through geolinguistics	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Asian Geolinguistics, Monograph Series	6. 最初と最後の頁 40-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八木堅二	4. 巻 266
2. 論文標題 山西方言における軽声と語末変調	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中国語学	6. 最初と最後の頁 117 - 135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7131/chuugokugogaku.2019.266_117	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YAGI kenji	4. 巻 7
2. 論文標題 Notes on front rounded vowels in Sinitic languages	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Asian Geolinguistics, Monograph Series	6. 最初と最後の頁 28-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木堅二	4. 巻 71
2. 論文標題 学会展望 (語学・方言)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中国学会報	6. 最初と最後の頁 65 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木史己	4. 巻 6
2. 論文標題 漢語方言有關“臉”的詞語比較 以江浙地区的高精細度地圖為線索	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Asian Geolinguistics, Monograph Series	6. 最初と最後の頁 73-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 SUZUKI Fumiki	4. 巻 7
2. 論文標題 Characteristics of the Geographical Distribution of Words Denoting Cultural Items in Sinitic Languages	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Studies in Asian Geolinguistics, Monograph Series	6. 最初と最後の頁 14-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤光暁	4. 巻 4
2. 論文標題 アジア地理言語学プロジェクト2015-2017概要	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 199-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤光暁	4. 巻 8
2. 論文標題 “ It rains ” in Tai-Kadai	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studies in Asian Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 33-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤光暁	4. 巻 4
2. 論文標題 Correlation between onset and vowel, and the principle of “ wider distribution ” as revealed in the	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Papers from the Fourth International Conference on Asian Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 74-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤光暁	4. 巻 11
2. 論文標題 曲折調的誕生和消失	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤光暁	4. 巻 11
2. 論文標題 山東方言二字組変調の地理言語学的研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 9-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Suzuki, Sonam Wangmo	4. 巻 4
2. 論文標題 Geolinguistic approach to the route of Tibetic loanwords in Lhagang Choyu	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Papers from the Fourth International Conference of Asian Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 115-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 八木堅二	4. 巻 70
2. 論文標題 学会展望 (語学)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本中国学会報	6. 最初と最後の頁 71-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 八木堅二	4. 巻 29
2. 論文標題 中国語方言韻律研究の言語類型地理論的課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外国語外国文化研究	6. 最初と最後の頁 18-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木史己	4. 巻 36
2. 論文標題 試論表名詞多様化的成因 以表 高粱 義詞爲例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中國語學研究『開篇』	6. 最初と最後の頁 179-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fumiki SUZUKI	4. 巻 8
2. 論文標題 “ It rains ” in Sinitic	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studies in Asian Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 29-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 Mitsuaki Endo
2. 発表標題 Tasks of “ Studies in Asian and African Geolinguistics ” 2020-2022
3. 学会等名 The First Meeting of the Academic Year 2020 Joint Research Project on “ Studies in Asian and African Geolinguistics ” , ILCAA
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mitsuaki Endo
2. 発表標題 Stop Series in Kra-Dai
3. 学会等名 Joint Research Project on “ Studies in Asian and African Geolinguistics ” , ILCAA
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 遠藤光暁
2. 発表標題 Dong台語数詞の地理語言学研究
3. 学会等名 中国語言地理比較研究論壇（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Mitsuaki Endo
2. 発表標題 Grammatical Relations in Kra-Dai
3. 学会等名 The Second Meeting of the Academic Year 2020 Joint Research Project on “Studies in Asian and African Geolinguistics”, ILCAA
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hiroyuki Suzuki
2. 発表標題 Geolinguistic significance of the Phongpa dialect in the history of Yunnan Tibetan
3. 学会等名 2nd Annual Meeting of Japan Geolinguistics Society of Japan
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroyuki Suzuki
2. 発表標題 Theoretical Frameworks for Stop Series in Asia and Africa
3. 学会等名 The First Meeting of ILCAA Joint Research Project “Studies in Asian and African Geolinguistics”
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroyuki Suzuki, Shiho Ebihara, Kazue Iwasa, Keita Kurabe, and Satoko Shirai
2. 発表標題 Stop Series in Tibeto-Burman
3. 学会等名 The First Meeting of ILCAA Joint Research Project “Studies in Asian
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木博之
2. 発表標題 從地理語言学的角度來講雲南藏語的歷史發展
3. 学会等名 中国語言地理比較研究論壇（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kenji Yagi
2. 発表標題 Stop Series in Sinitic
3. 学会等名 The First Meeting of the Academic Year 2020 Joint Research Project on “Studies in Asian and African Geolinguistics”, ILCAA
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八木堅二
2. 発表標題 er音の分布和演变 - - ;以中西部方言為主
3. 学会等名 中国語言地理比較研究論壇
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鈴木史己
2. 発表標題 漢語方言中の反義形容詞比較研究—以“高/矮”為例
3. 学会等名 中国語言地理比較研究論壇（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Fumiki Suzuki
2. 発表標題 Grammatical Relations in Sinitic
3. 学会等名 The Second Meeting of the Academic Year 2020 Joint Research Project on “Studies in Asian and African Geolinguistics”, ILCAA
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Mitsuaki Endo
2. 発表標題 Correlation between onset and vowel, and the principle of “wider distribution” as revealed in the changing process of the forms for “rain” in Tai-Kadai
3. 学会等名 Fourth International Conference on Asian Geolinguistics（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mitsuaki Endo
2. 発表標題 Time Series Maps of Tone in the Hebei Dialects of Chinese
3. 学会等名 9th CONGRESS OF THE INTERNATIONAL SOCIETY FOR DIALECTOLOGY AND GEOLINGUISTICS（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mitsuaki Endo
2. 発表標題 Synopsis of the Project on Asian Geolinguistics 2015-2017
3. 学会等名 UNESCO International Conference "Role of linguistic diversity in building a global community with shared future: protection, access and promotion of language resources (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠藤光暁, Qi海峰
2. 発表標題 山東Ju県方言尖団音変異の初步考察
3. 学会等名 第10回演化語言学国際研討会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠藤光暁
2. 発表標題 曲折調の誕生和消失
3. 学会等名 第68回日本中国語学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 遠藤光暁
2. 発表標題 山東方言兩字組変調の地理語言学研究
3. 学会等名 漢語方言比較和地理研究論壇 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Naruya Saito, Mitsuaki Endo
2. 発表標題 Origins of Yaponeseians from genetic and linguistic viewpoints
3. 学会等名 International Symposium: Transeurasian millets and beans, languages and genes (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroyuki Suzuki, Sonam Wangmo
2. 発表標題 Geolinguistic approach to the route of Tibetic loanwords in Lhagang Choyu
3. 学会等名 4th International Conference of Asian Geolinguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木博之
2. 発表標題 利用Gabmap 進行語言研究：藏語方言研究的成果和反思
3. 学会等名 上海大學講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木博之
2. 発表標題 從藏族傳統地理來看康巴藏語的分布與分類法
3. 学会等名 中央民族大學學術沙龍（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木博之
2. 発表標題 川甘交界區藏語土話的多樣性：地理語言學研究的啓示
3. 学会等名 中央民族大学講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木博之
2. 発表標題 藏語口語發展史與地理語言學：以雲南藏語的發展過程為例
3. 学会等名 中央民族大学講座（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroyuki Suzuki, Tsering Samdrup
2. 発表標題 How geolinguistics deals with pastoralists' speeches and their history: A case study on Amdo Tibetan in Eastern Tibet
3. 学会等名 9th Congress of the International Society for Dialectology and Geolinguistics (國際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 次林央珍、鈴木博之
2. 発表標題 東旺藏語語言地圖及其周邊土話的關係
3. 学会等名 中央民族大学學術沙龍
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木博之
2. 発表標題 利用已出版的方言資料集進行地理語言学研究：以《拉hu語方言地圖集》為例
3. 学会等名 中央民族大学學術沙龍
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木博之
2. 発表標題 地理語言學上的海拔因素：雲南迪慶康巴藏語的個案研究
3. 学会等名 上海大學講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 八木堅二
2. 発表標題 輕聲的高精細度地圖 - - 以山西省的分布為例
3. 学会等名 漢語方言比較和地理研究論壇（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 八木堅二
2. 発表標題 漢語方言輕聲的頻率地圖
3. 学会等名 日本中國語学会第68回全國大會
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 Mitsuaki Endo et al.eds.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 300
3. 書名 Linguistic Atlas of Asia	

1. 著者名 Suzuki Hiroyuki & Mitsuaki Endo eds.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ILCAA, TUFS	5. 総ページ数 100
3. 書名 Studies in Asian and African Geolinguistics, I	

1. 著者名 鈴木博之・遠藤光暁共編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	5. 総ページ数 276
3. 書名 中国語言地理研究論文集	

1. 著者名 Satoko Shirai & Mitsuaki Endo, eds.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ILCAA, TUFS	5. 総ページ数 85
3. 書名 Studies in Asian Geolinguistics, 8	

1. 著者名 Hiroyuki Suzuki & Mitsuaki Endo, eds.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ILCAA, TUFS	5. 総ページ数 176
3. 書名 Papers from the Fourth International Conference on Asian Geolinguistics	

1. 著者名 Hiroyuki Suzuki	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ILCAA, TUFS	5. 総ページ数 153
3. 書名 100 Linguistic Maps of the Swadesh Word List of Tibetic Languages from Yunnan	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 博之 (Suzuki Hiroyuki) (10593006)	国立民族学博物館・人類基礎理論研究部・外来研究員 (64401)	
研究分担者	鈴木 史己 (Suzuki Fumiki) (20803886)	南山大学・外国語学部・講師 (33917)	
研究分担者	八木 堅二 (Yagi Kenji) (60771102)	国士舘大学・政経学部・准教授 (32616)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 中国語言地理比較論壇	開催年 2020年～2020年
----------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	中央民族大学	南開大学	復旦大学	他2機関
ベトナム	ハノイ社会人文科学大学			
シンガポール	シンガポール大学			